

たも網を川岸の茂みの根元に突っ込みながら、川の生き物を探る子どもたち=丹波篠山市真南条下で



東雲高校自然学科の生徒から解説  
を受ける子どもたち

## ガサガサして魚ゲット

### 環境みらいの会 真南条川で生き物観察

篠山環境みらいの会（10人、会長）は、地域の自然環境を（10人、会長）で武庫川上流の生きもの（10人、会長）校生とその保護者計20人が参加。たも網を手に川に飛び込み、水中の生き物

観察会を開いた。丹波篠

自然科学部の部員2人と、同部顧問で同校理科教諭でもある

会長が務めた。部員たちは参加者に、「生き物の多くは川縁に繁茂する草の根元に潜んでいて、川に向

けてたも網を置き、その前に茂みに足を突っ込んでガサガサするといふ声を響かせていた。講師は、篠山東雲高校

友だちとにぎやかに魚捕りをしていた古市小学

校5年生の

さくらは、「この川は去年までよく魚捕りに来ていた場所。以前よりミズカマキリが増えている。大勢で探つたら、思っていた以下まで水に浸かり、教わった通りにガサガサとし、次々に生き物を捕獲。部員らが用意した水槽やバットに、大まかな種類ごとに分けて放つた。

生き物が集まるべ

員たちによる解説タイ

ム。「田んぼにもたくさんいたドジョウは、いま

や絶滅危惧種。県版レッ

ドリストのBランクに指

定されるほど数が減っている」「タナゴの仲間の

アブラボテは二枚貝に卵

を産み付けるが、二枚貝

の減少に伴い、この魚も

数を減らしている。レッ

ドリストCランク」など

と丁寧に説明していた。

2025年8月31日

丹波新聞